

飢餓と発展途上国の農業

指導のねらい

- 世界各地における人々の生活の様子とその変容について、自然及び社会的条件と関連付けて考察させ、世界の人々の生活や環境の多様性を理解させる。
- 世界では、食料不足のために栄養失調や栄養不足になっている人が9億人以上も存在し、約8人に1人が飢えているという現状を理解させる。
- 貧困などの課題の解決のために、経済的、技術的な協力などが大切であることを理解させる。
- 南北の経済格差を解消し、発展途上国の生産者と先進国の消費者をつなぐパートナーシップを目指すフェアトレード（公正取引）運動について理解させる。



学習指導要領との関連

- ・中学校社会【地理的分野】(1) イ
- ・中学校社会【公民的分野】(4) ア、イ

キーワード

発展途上国の農業

発展途上国では、灌漑などの設備が整っている地域は極めて限られている。そういった地域では、天候の影響を直に受けやすくなる。長期的な干ばつや洪水などが発生すると、農作物の生産量が激減するなどの壊滅的打撃を受ける。また、輸出用の商品作物などが農業産品の中心になっている国も多く、不作などの影響により国の経済に大きな打撃を受けやすくなっている。

フェアトレード

通常、需要や市場価格の変動などが影響する国際的な取引においては、発展途上国の生産現場は弱い立場に置かれていることが多い。そのため、発展途上国での生産者や労働者は低賃金労働を強いられることになる。フェアトレードは、発展途上国での生産や労働に対し、正当な対価を支払い、人々の自立を促すことを目的とした取引である。

資料のポイント

- 世界中には貧困のため、食料の確保が困難な人が存在することを知り、その原因を考えさせる。
- 干ばつ等により、特に発展途上国の食料生産が危機的な状況にあることを理解させる。
- 発展途上国では先進国に輸出するための農業産品を生産しており、農業システムが先進国の都合で作り変えられていることも多い。工業化や産業が多様化することは、経済基盤を安定させることにつながる。
- 先進国の食卓を支える発展途上国の生産現場では多くの人々が貧困に喘いでいるという現状がある。発展途上国の人々がいかに懸命に働いても、まともに食べられないとはどういうことかを考える。

資料1 資料2

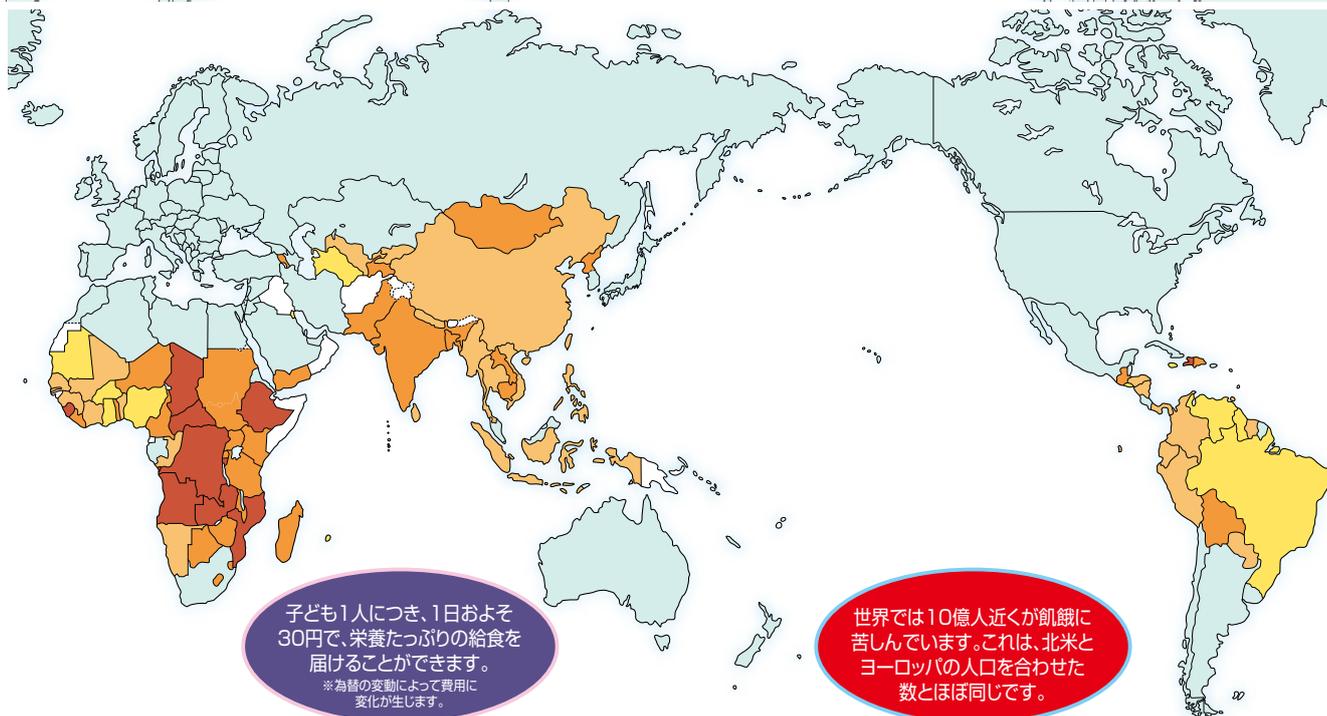
資料3 資料4

資料5

資料6 資料7

コラム

資料1 ハンガーマップ:世界の飢餓状況

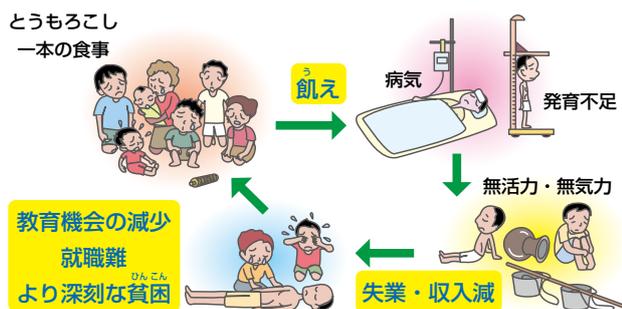


世界では飢餓に苦しんでいる人が、約9億2500万人もいます。そして、そのほとんどがアジアやアフリカなどの発展途上国に集中しており、特にサハラ砂漠より南のアフリカ地域は非常に深刻な状態です。発展途上国では、5歳以下の子どもが毎年1000万人も死亡し、その60%が栄養不足・飢餓が原因で亡くなっています。

出所：WFP「世界の飢餓状況2010」

分類	1	2	3	4	5	○
栄養不足の人口の割合	<5%	5~9%	10~19%	20~34%	≥35%	データ不足
栄養不足度	極度に低い	非常に低い	やや低い	やや高い	非常に高い	

資料2 飢餓の問題



飢餓に陥ると、子どもは発育不足や病気になり、大人は働く力や気力がなくなって失業してしまうこともあります。また、収入がなくなると食べ物を買うことができなくなり、飢餓状態から抜け出せないという悪循環に陥ります。親の収入がなくなると、子どもの栄養状態が悪くなったり、親の代わりに働かなければならず学校に行く機会を失ったりします。

資料3 飢餓の原因

慢性的貧困

貧しい農民は農業を行うための土地や水、種を確保する資金がないため、収入や食料を得ることが難しくなり、貧困や飢餓から抜け出せません。そのほか、農業基盤の不整備、HIV/エイズなどの感染症、環境破壊なども飢餓の原因として挙げられています。また、食料価格などが高騰すると、貧しい人々が真っ先に被害を受けます。また、子どもも教育を受けることができなくなるため、貧困が連鎖します。



写真提供：長倉洋海 / JICA

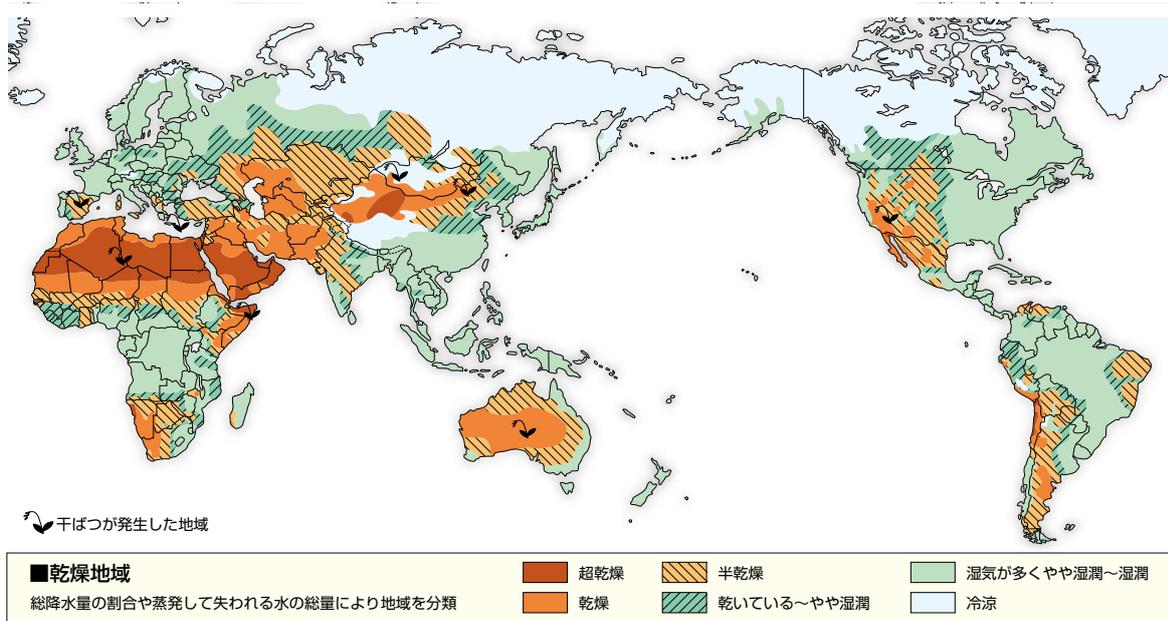
自然災害

地震や津波、洪水や干ばつなどの自然災害が起こると、人々は家や財産、仕事などの生活基盤を失い、農作物は被害を受けます。近年、自然災害による被害が深刻化しています。

紛争

紛争が起きると、大勢の人が家や農地などを捨てて避難せざるを得なくなり、なかなか住んでいた場所に帰ることができません。地元に残ったとしても、危険で農作業もままならず、食料の確保は困難を極めます。

資料4 世界の乾燥地域と干ばつの発生状況

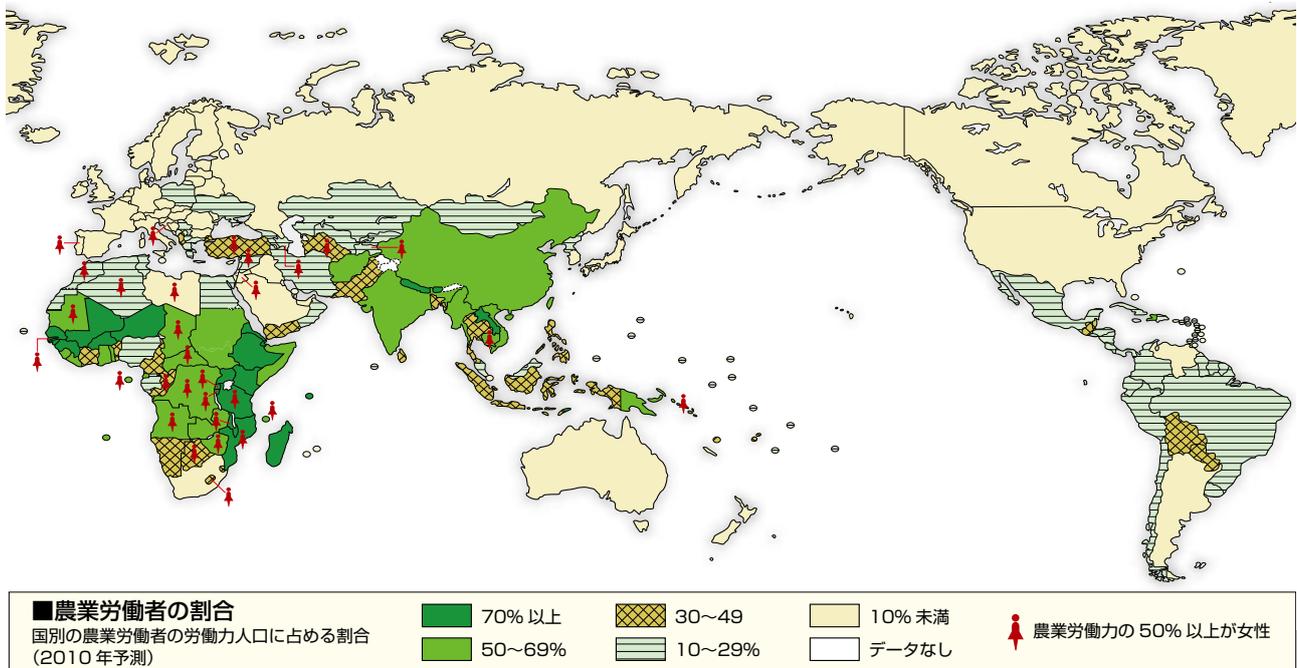


世界の乾燥地域は、アジア内陸部、西アジア、アフリカ北部などに分布しており、約21億人が住んでいます。このうち約10億人は、干ばつや砂漠化で生活を脅かされています。彼らの多くは、自然資源に頼った生活をしており、天水（雨水や川、池など）による農業や放牧で生計を立てています。ひとたび干ばつになる

と、多くの家畜を失い、日々の糧を得ることができなくなります。そして、その土地の能力を超えた過耕作や過放牧、また、食事や暖をとるためにただでさえ少ない木を切り倒すことで、砂漠化が進んでしまう事態が起きています。

出所：IPCC「Climate Change 2007：Synthesis Report」

資料5 農業労働者の割合



世界的に見て、農業に従事する労働者の割合は低下してきています。しかしながら、アフリカやアジアの発展途上国では、50%以上、70%以上という国もあります。こうした国では、灌漑などの農業施設の整備が遅れ、機械化も進んでいないことが多く、自然災害などにより不作になると、国全体で大きな打撃を受け、貧困層をさらに増大させることとなります。また、アフリカではエイズの蔓延で、農業に従事する労働力が失われています。

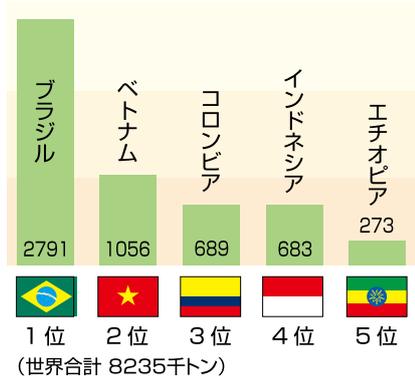
先進国では、直接農業に関わる労働者は減ってきていますが、肥料や農薬の生産、農業機械の製作などに多くの人が携わり、かげで高い生産力を支えています。

発展途上国では、農業形態の変化などにより、農業では生計を立てることができなくなった人々が、都市に流れ、貧困層となる事態が起きています。

出所：FAO「FAO STAT 2007」

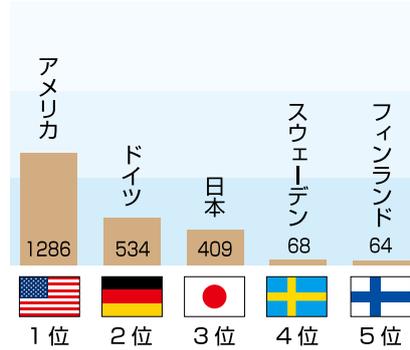
資料6 コーヒー豆の生産国と消費国(上位5か国)

■ コーヒー豆の生産国(2008年)
(千トン)



出所:FAO [FAOSTAT 2010]

■ コーヒーの消費国(2009年)
(千トン)



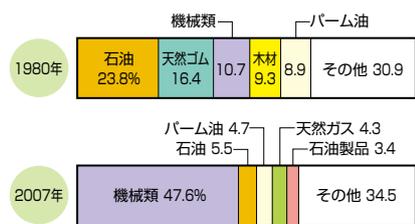
コーヒー豆の生産国ベスト5は、上から順にブラジル、ベトナム、コロンビア、インドネシア、エチオピアで、新興国や発展途上国がその中心となっています。

一方、消費国ベスト5はアメリカ、ドイツ、日本、スウェーデン、フィンランドで、すべて先進国です。

コーヒーの生産地では、商品作物としてコーヒー産業に依存している現状があります。しかし、天候の影響で不作になったり、生産過多により価格が下がったりすると、経済的に大きな打撃を受けます。

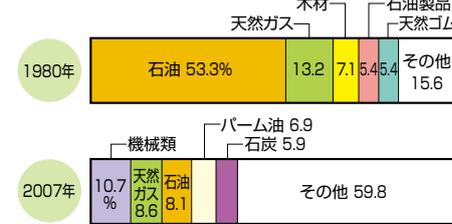
資料7 東南アジアの産業の移り変わり

■ マレーシア産業の移り変わり



出所:貿易統計年鑑2007年版ほか

■ インドネシア産業の移り変わり



マレーシアやインドネシアなどの東南アジアの国々では、以前、植民地時代に作られたプランテーション(大農園)でゴムやコーヒーなどが栽培されていました。

しかし、近年工業に力を入れることにより、国の産業構造が変化してきています。当初は簡単な組み立てや加工による工業製品が中心でしたが、だいに高い技術力を必要とする工業製品も作られるようになってきています。

コラム コーヒー農家の取り分

コーヒー農家は、コーヒー豆を生産して、いくらの対価を得ているのでしょうか。ある試算では1杯のコーヒーの値段の1~3%が、コーヒー農家の取り分だといいます。つまりわたしたちが飲んでいるコーヒーが300円だとすれば、農家の収入は3~9円となります。

コーヒー豆が生産者から消費者に届くまでには、買い付け、輸送、焙煎、販売などの段階が必要で、いくつもの業者を仲介することになりますが、発展途上国の生産者や労働者は弱い立場に置かれやすく、そのため取り分が低く抑えられています。

一方で、こういった経済システムでは、発展途上国にいる生産者がずっと弱い立場のままであり、いつまでも貧困状態から抜け出せず、自立できないことから、生産者の立場を守るための取引としてフェアトレードという取り組みがあります。



写真:アフロ

フェアトレードでは、生産者に対し、労働の対価をきちんと支払える仕組みを作っています。そして今、少しずつですが、日本でもフェアトレード商品が扱っているお店が増えています。

食料の需要と供給のバランス

指導のねらい

- 世界的な視野から日本の食料に関する現状や特色を取り上げ、国内の食料に関する課題を理解させる。
- 自分の食生活に関心を持ち、問題点があればそれを改善する工夫を考えたり、自分や家族の食生活をさらに豊かにするための工夫を考えたり、課題をもって日常食の調理や地域の食材を生かした調理計画を立て、食生活をより良くしようとする意欲と態度を育てる。
- 国際的な相互依存関係の深まりの中で、各国民が協力し合うことが重要であることを認識させる。



学習指導要領との関連

- ・中学校社会 [地理的分野] (1) イ
- ・中学校社会 [公民的分野] (4) ア、イ
- ・中学校技術・家庭 [家庭分野] B

キーワード

食料自給率

国内で消費される食料について、どれくらい国内の生産で賄えているかを示す割合のことで、日本の食料全体における自給率を示しているものを総合食料自給率という。算出方法には、一般的によく使われる食品を供給熱量に換算したもの（カロリーベース）と食品を金額に換算したもの（生産額ベース）があるが、安く大量に購入される外国産食料に比べ、国産の食料は価格が高くなるので、カロリーベースのものよりも生産額ベースのほうが自給率は高くなる。

フードマイレージ

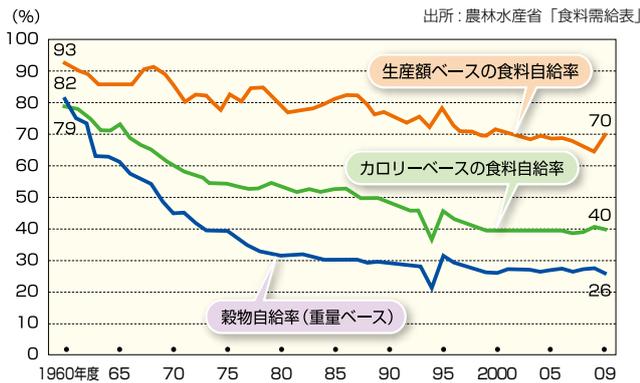
輸入された食料の量×日本までの輸送距離で計算した値（単位はtkm=トンキロメートル/人）で、食料輸送がどれだけ地球環境に負荷を与えるかを示す指標である。生産地と消費地が近ければ負荷は減り、遠くから食料を運んでくると負荷は増えていく。最近行われている、地元でとれる食材や、旬の食材を選ぶようにする取り組み（地産地消など）はフードマイレージ、すなわち環境負荷が小さく、食料自給率も向上させる取り組みと言える。



資料のポイント

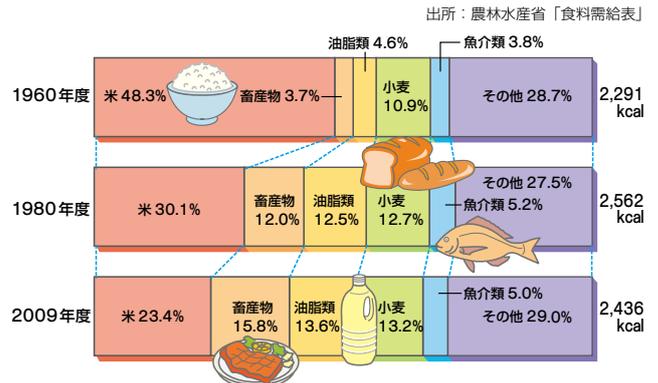
- 農産物の貿易自由化により、外国から多くの安価な農産物が輸入されるようになり、日本の食料自給率は大幅に低下していることを理解させる。また、他にも食料自給率の低下は日本人の食生活の変化が大きく関連していることに気付かせる。 資料1
資料2
- 日本はカロリーベース自給率が40%に過ぎない（60%が輸入）にもかかわらず、食品の約3分の1が廃棄されていることを知る。 資料1
資料3
- 食料価格高騰の背景に私たちの生活様式や生活習慣が大きくかわっていることなどに、気付かせる。「経済的に豊かな人々」が優先的に食料を確保し（それを無駄に廃棄し）、食料の価格を釣り上げている構造があり、最も被害を受けているのは貧しい人々であることを理解させる。 資料3
資料4 資料5

資料1 食料自給率の変遷



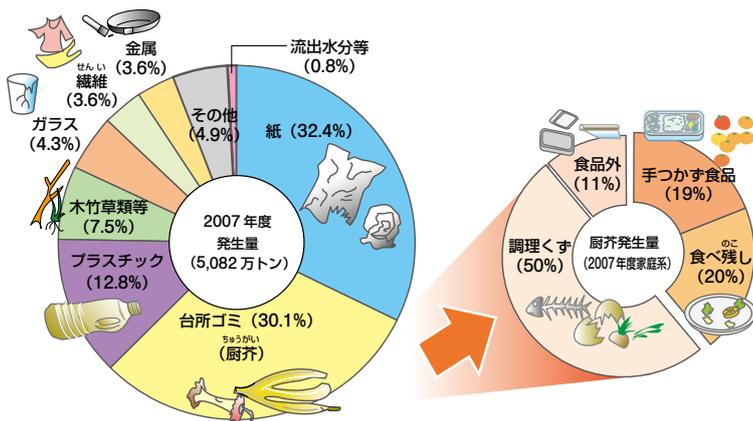
日本の食料自給率(カロリーベース)は、1960年には80%近くありましたが、いまや半分の40%以下にまで下がっています。雨が多く、夏の気温が高い日本では稲作が発達していたため、自給率が高かったころは米を中心とした食事でした。しかし、日本の食生活が大きく変化し、食料自給率は下がってきています。

資料2 食料消費品目の変遷



近年、米の消費が減り、肉類や油脂類の摂取が増えています。日本国内で飼育されている牛や豚などのエサとなるとうもろこしや、油やしょうゆの原料となる大豆は日本で十分に作る事ができず、輸入に頼っています。つまり、国産の肉や日本食に欠かせないしょうゆやみそも、実際には輸入穀物に支えられているのが現状です。

資料3 日本での食料の廃棄状況



出所：環境省 平成19年度 容器包装廃棄物の使用、排出実態調査

日本では、主に家庭、学校、事業所での出るゴミを一般廃棄物と呼び、一年間で5082万トン(2007年)あり、台所ゴミは約1500万トンになります。そのうち、食べ残しや手つかずの食品といった、まだ食べられるものが40%近くに上り、その量は600万トンになります。日本はたくさんの食品を外国から輸入しているにもかかわらず、大量の食品を廃棄している現状があります。

- ・台所ゴミ1500万トンは、国民一人あたり125kg
- ・手つかず食品290万トンは、国民一人あたり24.1kg
- ・食べ残し305万トンは、国民一人あたり25.4kg

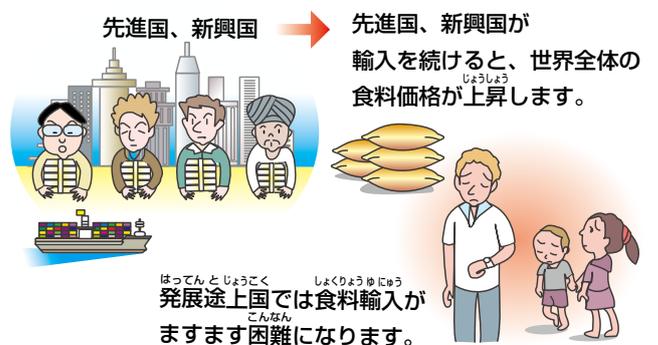
資料4 食料の価格変動



近年になって、米、小麦、とうもろこし、砂糖などの価格が高騰しています。原因としては、原油価格の高騰、とうもろこしやサトウキビがバイオ燃料の原料として、転用されたことによる需要の拡大、気候変動による不作などが挙げられます。

出所：FAO Food Price Index

資料5 食料価格高騰の原因



食料の価格高騰の大きな原因の一つに先進国や成長著しい新興国が穀物確保に力を入れていることが挙げられます。日本と同じように、新興国でも人々の食生活は変化しています。例えば、中国では家畜飼料の大豆の輸入量が10年間で9倍に膨れ上がりました。